

【暗唱聖句】

「こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者なのです。それは、最初の契約の下で犯された罪の贖いとして、キリストが死んでくださったので、召された者たちが、既に約束されている永遠の財産を受け継ぐためにほかなりません」ヘブライ 9:15

【日曜日・関係】

「わたしはあなたたちのただ中にわたしの住まいを置き、あなたたちを退けることはない。わたしはあなたたちのうちを巡り歩き、あなたたちの神となり、あなたたちはわたしの民となる」レビ 26:11,12

古い契約であれ、新しい契約であれ、神様はその民との愛のうちにある親しい関係を求めておられます。そのことが分かりやすい、目に見える形で表されたのが聖所の建設でしょう。

**出エジプト 25:8**「わたしのための聖なる所を彼らに造らせなさい。わたしは彼らの中に住むであろう」

契約の中身であり、神様の御心である十戒が文字で示されると共に、神様はご自分が住まわれると約束された聖所を民の中に作らせました。なぜ、神様は民の間に住まわれることを望まれたのでしょうか。それは2つの理由が書かれてあります。一つは、「イスラエルの民のうちを巡り歩くため」です。つまり、いつもそば近くにおいて、見守ってくださるためです。もう一つは「主がイスラエルの民の神となり、イスラエルの民は主の民となる」ためです。主なる神様とその民という関係を成立させるためです。主と民の関係は、主は民を守り、民は主に仕えるものです。このような関係をきちんと機能させ、分かりやすく提示するために聖所を造らせ、その中に住まわれると主は言われたのです。

また、神様が私たちのただ中に住まわれると言われても、民たちは近寄りがたさや恐れを感じたことでしょう。しかし、主は「あなたたちを退けることはない」と約束されました。神様は遠い方ではなく民といつも一つとなってくださる優しい方なのです。

【月曜日・罪、犠牲、受容】

レビ記 1~7章にかけて、旧約時代における罪を取り除くための手段として、動物を犠牲としてささげることが明記されており、様々な犠牲の種類がありますが、血の使い方については特に注意が払われました。民が罪を犯すとき、それは神様との契約関係で定められた律法を破ることを意味していましたが、身代わりとして動物を捧げることによって、罪が赦され、罪びとは清められ、神様との関係が回復されるようにと神様が定められました。その際に別途犠牲の動物の血を祭壇に振りかけることによって、罪咎は聖所に移されました。レビ 26:11に神様は、「あなたたちを退けることはない」と書かれてありますが、これはどんなに大きな罪を犯してしまったとしても、赦されない罪はないことを意味しています。どんなに罪深さを感じていても、ありのままに神様のもとに行くことができます。

また捧げられた犠牲の動物には預言的な意味があり、それは神の御子イエス・キリストを象徴していました。動物が捧げられ、血を流したように、イエス・キリストは十字架で血を流し、その命を捧げてくださいました。それゆえ象徴である動物には罪を取り除く力はないと、ヘブル 10:4に教えられているのです。

【火曜日・身代わり】

**ガラテア 1:4**「キリストは、わたしたちの神であり父である方の御心に従い、この悪の世からわたしたちを救い出そうとして、御自身をわたしたちの罪のために献げてくださったのです」

イエス様は私たちの罪を贖い、悪の世から救い出すために、自らの命を捧げて下さいました。これは強制されたものではなく、自ら選んだ道でした。人類のあけぼの P 53, 54 に次のように書かれています。

「キリストは、墮落した人類を救うために悲惨のどん底においてこられるのであった。キリストは、罪人のために父の前に嘆願された。その間、天の万軍は、言葉で表現することのできない深い関心をもって、その結果を待ちうけた」人類のあけぼの P 53, 54  
救いの計画は、地球が創造される前からたてられていました。そして、実際に人間が罪を犯した時、その計画通りイエス様は父なる神様に自らの犠牲となって人間を救うことを申し出たのです。それは父なる神様の御心でもありました。しかし、み子を罪を犯

した人類のために死にわたすことは父なる神にとっても簡単なことではありませんでした。それでも、「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった」のです(ヨハネ三ノ一六)。キリストが命を捧げて下さったおかげで、神様との関係を回復し、永遠の命への道が開かれました。これを信じ望むものは誰一人拒まれることなく、受け入れられるのです。

またキリストが流された血によって何が起こったのかについて聖書はふれています。まずイエス様ご自身次のように言っています。

**マタイ 26:28 「これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である」**

イエス様はご自分の流された血により、多くの人々の罪が赦されるようになりました。血そのものが契約の証となっています。キリストの血により罪が赦されることによって、神様に近い者とされたことがエフェソ 2:13 に記されています。

**「しかしあなたがたは、以前は遠く離れていたが、今やキリスト・イエスにおいて、キリストの血によって近い者となったのです」**

さらに、キリストの血により罪赦され、神様に近い者とされた者は、良心が清められ、生ける神様を礼拝するように導きます。

**ヘブライ 9:14 「まして、永遠の“霊”によって、御自身をきずのないものとして神に献げられたキリストの血は、わたしたちの良心を死んだ業から清めて、生ける神を礼拝するようにさせないでしょうか。」**

このようにキリストの血は神様と私たちの関係を正しい状態に回復させる力であり、そのことにより様々な素晴らしいことが始まるのです。

#### 【水曜日・新しい契約の大祭司】

地上の聖所において動物が捧げられた後、それで終わりではなく、祭司は聖所の中で、その動物の血をもって務めを行いました。

同様に、キリストの十字架の死も、それをもって終わりではなく、イエス様の働きは天の聖所での奉仕に移行しました。

**ヘブル 8:1 「今述べていることの要点は、わたしたちにはこのような大祭司が与えられていて、天におられる大いなる方の玉座の右の座に着き、8:2 人間ではなく主がお建てになった聖所また真の幕屋で、仕えておられるということです。」**

イエス様は天の聖所でどのような働きをしておられるのでしょうか。それは大祭司が行っていた務めよりさらに優れた務めです。

**ヘブル 8:6 「しかし、今、わたしたちの大祭司は、それよりはるかに優れた務めを得ておられます。更にまさった約束に基づいて制定された、更にまさった契約の仲介者になられたからです」**

ここにイエス様はわたしたちの大祭司であり、地上において交わされた約束や契約よりもさらにまさった約束・契約による仲介者となられたので、地上の大祭司よりもはるかに優れた務めをしておられると書かれてあります。地上の大祭司はあくまでも本物の大祭司であるイエス様の影に過ぎませんでした。天におけるイエス様の奉仕を連想することはできます。すなわち、大祭司が年に一度贖罪日に、民を代表して至聖所に入り、犠牲の動物の血により聖所を清め、民の罪を贖ったように、天においてイエス様は、ご自分が流された血により天の聖所を清められ、人類の罪の贖いを完成されます。地上の聖所での奉仕はすべて、天の聖所の奉仕の影あるいは型でした。天には人間が作った聖所ではなく、主ご自身がお建てになった聖所があり、犠牲の動物ではなくイエス様の命が捧げられ、祭司ではなくイエス様が仲保の働きをしておられるのです。

#### 【木曜日・天での奉仕】

**ヘブル 9:24 「なぜならキリストは、まことのものの写しにすぎない、人間の手で造られた聖所ではなく、天そのものに入り、今やわたしたちのために神の御前に現れてくださった」**

「キリスト私たちのために神の御前に現れてくださった」と書かれてあります。そして、9:25 に「キリストがそうなさったのは…世の終わりにただ一度、御自身をいけにえとして献げて罪を取り去るために、現れてくださいました」と続きます。罪を赦す権威を持っておられるのは父なる神様です。私たちは直接父なる神様の御前で出て赦しを請うことができません。だから、キリストが私たちの代わりに父なる神様の御前に立たせ、仲保者として執り成して下さっているのです。その仲保の働きは、天と地をつなぐ働きでもあります。これができるのは、完全に神であり、かつ人でもあられたイエス・キリストだけなのです。これこそが新しい契約の素晴らしい知らせなのです。悔い改めた罪びとには、イエス様がいま天の父なる神様のみ前にたち、執り成して下さっているのです。これなしに、来るべき裁きにおいて希望はないのです。